



第1701回 2020年10月1日(木) 《週報》

秦野名水ロータリークラブ
秦野商工会議所 12:30

1. 点 鐘

2. 合 唱 国歌「君が代」,「奉仕の理想」,ロータリーの目的

3. お客様の紹介

- ・米山奨学生 シルバカーランバアラッチゲドナ・シーギリ・ヒマーシさん
- ・秦野中RC 矢野一博様

4. 会長の時間

○先週卓話を頂きました後藤PGよりお便りを頂きました。

『拝啓

暑さ寒さは彼岸まで、の言葉がありますが、お彼岸を過ぎましたら先日までの暑さが嘘のように、一気に秋の陽気になったような気がします。

先日はお世話になりました。1700回記念例会とも思わず、会長のお誘いに気楽に乗ってしまいまして大変後悔しています。というのも大したお話も出来なかったことに加えて、会員の方が一番に最新のロータリー情報をと期待されていたろうと思いますのに、ロータリーの本質などの、古典的なロータリー観の話になってしまいまして、改めて申し訳ありませんでした。

ただそれにもかかわらず、多くの方々に歓迎戴きましたこと、そして皆さんがお忙しいところをわざわざ懇談会まで設定戴きましたが、ほとんどの方がお残りくださり、大変嬉しく存じました。会長から会員皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。

それはさておき、暫くぶりに貴クラブに伺ったわけですが、皆さんが明るい和やかな雰囲気を出されているように感じました。言われますように確かに前年度からは会員数も減少したかも知れませんが、私は大事なことは会員の数よりも、「ロータリーの親睦を通じて奉仕の心を磨く仲間の集まりかどうか」に、クラブの重要性、存在意義があるのではないかと考えています。

まさに今の秦野名水ロータリークラブの方々に、そんな印象を感じました。どうぞこれからも、例会が童心に戻り、ロータリアンの心を癒す潤いと安らぎの場に、元気を奮い起こす再生的機能を果たす場に、そして激励し、祝福し、知恵を授けあう思い遣りに満ちた場になりますよう、皆さんで尽力して行って戴ければと思います。

末筆でございますが、クラブのますますのご発展と、神崎会長はじめ会員皆さんがお身体ご自愛され、仕事にロータリーにご活躍されますようお祈りいたします。まずは取り急ぎご挨拶まで申しあげます。』

以上のような内容ですが、私の方からもお礼状を差し上げました。

- 現在ロータリーがいろいろ変わっています。が、その中で変わってよいものと変えてはいけないものをよくもう一度考え直す、確かに時代とともにロータリーも変化していきます。しかしそのロータリーの精神の中にどうしても変えてはいけないものがあるだろうと先日の後藤様の卓話の内容でした。我々ももう一度お便りにありましたように『童心に戻り』ということで所謂原点に戻りロータリーを考え直すというお話しではなかったかと思います。

- 後藤様は40年近くロータリーにおられ、変わりゆくロータリーをなんとなく憂いておられるような気が致しました。

今日は後藤様のお便りを紹介させて頂きました。

5. 幹事報告

【ガバナー事務所より】

- ①2019-2020 年度 地区資金会計監査報告
- ②R 財団卓話者についてお知らせ
- ③第 1 回地区補助金説明会 ご案内 (10/24 開催)
- ④地域社会の経済発展月間リソースのご案内

【受付文書】

- ①公益財団法人米山梅吉記念館より館報、賛助会ご入会のお願い
- ②後藤定毅様よりごあいさつ状

【例会変更】

《秦野》

《秦野中》

- ・10月16日(金)移動例会→通常例会

【本日の配布物】

- ・1701 回例会次第
- ・1700 回例会週報
- ・米山奨学寄付金納入のお願い
- ・ロータリーの友 10 月号
- ・米山記念奨学事業 2020-21 年度版豆辞典

6. 奨学金授与及びスピーチ



○ヒマーシさんのスピーチに関しては、クラブフォーラムでお願い致します。

7. 記念日

会社創業記念日

入会記念日

御結婚記念日



御誕生記念日 (会 員) 淵脇美代子さん (10/1)、矢端雅子さん (10/7)
(配偶者)

8. スマイル報告

- 秦野中 R C 矢野一博様「お久しぶりに伺いました。10月20日、ゴルフコンペ楽しみにしております。」
- 神崎達朗さん「めっきり秋らしくなってきました。今年の夏はかなり暑かったの
で体調に気を付けて下さい。今年度も3か月が過ぎました。この先もよろしく。」
- 大屋富茂さん「月日の経過は早いものですね！今年度も早くも1/4を経過致しま
した。残り期間楽しくロータリーを楽しみましょう！！」
- 鈴木和夫さん「9月28日ゴルフ同好会プライベートコンペを行いました。6名で
した。HCにも恵まれ優勝できました。気分が良いのでスマイルします。」
- 古谷スミ子さん「秋が来ましたね。秋の到来と共に元気百倍、コロナの奴をやっ

つけましょう。」

○山谷洋子さん「食欲の秋ですねー。」

○桐山晃忠さん「秋風が冷たくなってきました。風邪・インフルエンザ・コロナに充分気を付けましょう。」

○北村まり子さん「コロナの抗体検査をしてきました。陰性でした。」

○原郁夫さん「朝夕だいぶ涼しくなりましたね。矢野さんようこそおいで下さいました。」

○原恵美子さん「すっかり秋らしくなってきました。一年中で一番過ごしやすい月かもしれません。しかし・・・私にとってはホカロンの登場月になるのです。」

○東島礼美さん「今日はぎりぎりの時間でやっています。よろしくお願いいたします。」

○諸星道治さん「ヒマーシさん、日本語たいへん上手になりました。今日はどんな挨拶かな？スマイルします。」

○山本裕宣さん「ご無沙汰していました。スマイルします。」

○矢端雅子さん「9/29 伊勢原平成 R C、初めての MAKE UP ZOOM オンライン例会に参加させて頂きました。お誕生日 55 歳 (GOGO) 迎えることができました。スマイルさせて頂きます。」

○酒井健一さん「今までは背広を買うときはイージーオーダーでしたが、本日は吊るしのです。」

合計 45,000 円

9. 出席報告

○会員数 16 名、○出席義務 16 名、○出席数 14 名、○出席率 87.5%

10. 地区委員会報告 特になし

11. 委員会及びその他の報告 特になし

12. クラブフォーラム 米山月間について

米山奨学委員長 山谷洋子さん

○8 月 22 日に藤沢商工会議所において公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の米山奨学セミナー及びカウンセラー研修会がおこなわれました。

今日は米山記念奨学会につきましては復習になりますので、初めての方もおられるので概略のみお知らせ致します。

○この米山記念奨学会は 1952 年、日本で最初に設立された、東京ロータリークラブが、日本のロータリーの創始者と呼ばれている米山梅吉氏の功績を記念して始めた国際奨学事業で、国内の全ロータリー地区の合同事業として発展してまいりました。

米山記念となっていますが米山家の資産をもとにつくられた財団と思いがちですが そうではなく全国のロータリアンからの寄付金で成り立っています。

また奨学金の支給対象者は日本の大学 大学院で学ぶ外国人留学生で、その事業の特徴は 日本と世界とを結ぶ「架け橋」となり ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成するということになっています。これが米山記念事業の使命です。

○みなさんはこのシンボルマークをご存知でしょうか。

このハートが重なっているのはロータリアンと奨学生を意味しており、外国人留学生の支援・交流を通して信頼関係を築き世界平和を願う心を育てるという事業創設の願いがこめられています。その下の手はそうした心をうみだすと同時にロータリアンの手で支えられていることを示しています。



今月は米山月間です。皆様の手で支えられている米山奨学生、これからどうぞよろしくお願い致します。また今月ご寄付の方もよろしくお願い致します。それでは米山奨学生のヒマーシさんからお話を頂きたいと思います。

米山奨学生 シルバカーランバアラッチゲドナ・シーギリ・ヒマーシさん



- 皆さんこんにちは！私は一番最初の自己紹介の時に少し話したことがあります、今日は纏めて私の人生と生きがいについて皆さんの前でお話ししたいと思います。
- もし私が皆さんに「あなたの生きる意味がありますか」と聞いたら「ある」と答えられる方もいらっしゃるかもしれませんが、“生きる意味”あるいは“生きがい”について今まであまり考えたことがないという方が多いかもしれません。
- 私が日本語を勉強し始めたのは高校の時でした。日本語を好きになったきっかけは当時テレビで流れていた「おしん」でした。いつか「おしん」の国を自分の目でみたかったので一生懸命日本語を勉強しました。
その結果、スリランカの国立大学に入学し、卒業後 2003 年日本へ留学し、日本語学校に入りました。日本で大学院への進学も希望していた私でしたが、留学中にスリランカの父が死に、大きいショックを受けてスリランカに帰国することにしました。そして、スリランカで夫と結婚し、娘を授かりました。
- しかし日本も日本語も大好きであった私に日本の大学院で修士課程の勉強をするという夢を諦めることが出来ませんでした。スリランカの役所で働きながら、日本語の家庭教師も行っていました。充実した日々ではありましたが、いつも私の「生きる意味」に何か物足りないという気持ちでした。
そんな私に 2019 年転機が訪れました。毎日ため息ばかりついていた私でしたが友達を通して東海大学大学院について知ることが出来ました。日本への留学について家族と相談し、夫と娘が「私の夢を応援する」と理解を示してくれたため、この度 2019 年春から念願の日本大学院に留学を果たしました。
現在大学院で 20 代の同級生と勉強の面で戦うのは一つの挑戦ですが、今学期の成績は 7 科目の中 6 科目に“S”を取ってもっともっと修論を頑張りたい気持ちになりました。
- 私の人生の もう 1 つの問題は今スリランカに残してきた夫と娘のことでした。去年配偶ビザの手続きも行いましたが、タイミングが悪くて新型コロナの影響で入国出国も出来ず、一年半も家族と離散状態が続いていました。幸いに在スリランカ日本大使が私の気持ちを理解し、特別許可をもらって 10 月二人は日本へ来られるようになりました。家族の応援がなければ今日ここに私はいません。本当に感謝しかありません。
- 10 月はこのように私の人生を振り返って、今ここにいる私の生きがいの意味が何ですかと私が私に聞いてみました。すると「それは何よりも日本語だ」と心から答えてくれました。
- 10 月はロータリーの記念になる月ですが、私の人生とロータリークラブの出会いについても一言お話ししたいと思います。
私はロータリークラブの出会いとは“縁”だと思っています。特にアジア諸国から私のように日本に留学する留学生のいろいろな困難な点を理解して、奨学金制度を作った米山梅吉氏を始め皆様にも感謝申し上げます。更に経済的支援だけではなく、世話クラブ・カウンセラー制度を設けて奨学生の精神へのケアまで図っているなど本当に感謝しております。米山記念奨学金の創設の目的は留学生が平和を求める日本人と出会い、お互いに信頼し合う関係を築き、世界の架け橋となることを願う事でした。
私も将来日本とスリランカの架け橋になって社会活動に参加したいと思っています。米山梅吉氏の願いでもあり、他人への思いやりと助け合いの精神を身

に持つ人物になりたいと思っています。ご清聴ありがとうございます。

13. 会員3分間スピーチ

【原恵美子さん】

○私は1954年大磯で生まれ育ちました。そして

1978年に縁あって秦野市の鶴巻に嫁いできました。今年で結婚して42年になりました。実家は材木等年末になると竹のお飾りなどの卸を行い、父が横浜の方へ行って商売をした、そういう中で育ちました。父はその山の木が倒れたのが頭に当たり、普通の生活はできましたが、後遺症の為に廃業になってしまいました。小学校1年生くらいの時に盆暮れの集金に弟と一緒に父に連れられ横浜に行きました。なかでも桜木町は坂道の多いところだなあと子供心に思った記憶があります。



○結婚して、目の前の畑に行くと“蜘蛛”がいるのがとにかく嫌で(蜘蛛が大嫌い)あっちでキャー、こっちでギャーと言っていたが、年が経つにつれだんだん慣れてきました。義父が機械の好きな人でしたので、嫁いですぐに機械を入れてくれたので仕事は凄く楽になりました。その当時はお米の質やいろいろなものが殆ど分からずじまいでした。そして両親が他界し、自身も大病して7年間位何もやらなかったのですが、仕事に出だした時に顔から汗が噴き出して、流れるなんてものではなく噴いて噴いて、周りの人が心配するほどでした。ところがその汗が全部出切ってしまったら、体がすごーく丈夫になりました。年に何回か寝込むことがあったのに、ここ何年も寝込むことがなくなりました。

○今はもう最初から田へ行き可愛い稲を育てています。ちょっと残念なことに、本来ならこの10月に皇居の方にお米を奉納する当事者に選ばれて二人で伺う予定でしたがコロナの影響でお米だけということですので、私たち夫婦で記念写真を撮って細やかにお祝いをしようと話しています。

○このロータリークラブに入会するきっかけは、名水に入る何年も前に今は退会された元PAG石上様に熱心に入会を勧められておりましたが、そのころ主人がロータリーの役員をやっており、私はその当時朝のうちは、全然体が起き上がれなくて何しろ11時には絶対起き上がらなければとの思いでした。小腸を1.8m切って5kgのものが一気になくなって体のバランスはとれない大変な中で生活していたわけです。

先週お話し頂いた後藤PGにもお話ししましたが、とにかく主人を送り出してロータリーに100%出席の役目を果たしてもらえればといつも思っていました。また複数の委員会にも出席していかなければならない状況を見ていて、私にはロータリークラブは無理だとお断りしていました。でも両親も亡くなり、叔母も見送り、三回忌も済んだところで、個人できない事もロータリーに入ったらできるかなという気持ちが多少湧いてきて、皆様のお仲間に入れさせて頂きました。

○余談ですが、ロータリーに入りましたらクラブからバッジを頂きました。帰りにお茶をしたお店で主人がわざわざ買った純金のバッジをくれました。が、何か違うと思いました。そしたら、主人のバッジには会長経験者ということでダイヤが付いていたわけです。このバッジの違いはこういうことなんだ、そしてこのバッジを着けることを誇らしく思い、決して間違ったことをしないように道を歩きながらロータリアンとして人さまから後ろ指を指されたりしないように襟を正して生きていかなければならない、そういうバッジの重みを入会時に感じました。バッジに恥じない生き方をしていかなければいけないと思っています。これからも宜しくお願い致します。

【東島礼美さん】



○先程のヒマーシさんの「生きる意味を考える」のお話を聞いて頭がいっぱいになり、何を話そうかとなっております。与えられたお題は自己紹介のようだったと思っていますので、それと絡めてどのようにお話ししようかと思っています。

○私は蓑毛のお寺に生まれてずっとそこにおりまして、今になっております。その間いろいろありまして、京都へ行ったり、結婚して奈良に行ったりまたまたこちらに戻り秦野におります。

いろいろやりましたが結局あそこで頑張ることが使命なのかなと思っています。尼僧さんてこの世界ではなかなか難しいものがありまして、でも目立つという存在でして、やることがすべて見られているような、そして見た目が大事なようななかなか厳しいものがあります。ではそれを使って何をするかということが大事だと思っています。

○蓑毛というと凄いい田舎です。お寺・お坊さんの存在意義が問われる時代が来ているのではないかと思います。檀家制度があまり重要視されなくなってきた、何年か前にテレビで檀家数 500 あれば専門的にいけばいいと、300 でぎりぎりかな、とそれを見たうちの檀家さんが何軒あるんだと聞かれ 200 軒弱と答えたらそれ成り立っていないよねということでした。でもそこは住職によってはできる・できないがありまして、どうやってやるかは住職次第となります。

○蓑毛という田舎は市街化調整区域になっており、しかも丹沢・大山国定公園の中に入っており、自然はいっぱいですが猪や鹿とかがいっぱいいます。ユンボのようにガンガン畑を掘り、ただの野原のようにしてしまうので境界も何も無い状態の所に今度はお土産があります。蹄の所にある“山ビル”を落とします。ちょっと歩いていると即足につきます。それが 5 分もいけば 5~6 匹はつくのですぐに払い落とします。火を近づけたり、塩水が良いとか、薬もあるようです。何しろ野菜を育てるような段階ではないという状況です。

そして野菜を植えても植えても鹿が食べる、猪がほじくり返すということでみんな畑には手を付けられないという状態です。畑をやっていた方は困ってしまい檀家さんもやっていられないということになっています。

いろいろ打開策も考えて案も出して下さる方もおりますが、なかなか実現に結びついておりません。私がするわけではないので見守っている状態ですが、檀家さんのことなので、「協力して」となれば協力するつもりではおりますが、何か役に立てたらと心の面のケアは勿論ですが、実際の援助がいろいろお手伝いできたらなと思って山で奮闘して、猪と格闘しております。

畑も頑張って、ネギが採れたりアスパラが採れたりしています。私は今こういう状態で頑張っています。

ということで、生い立ちではありませんでしたが今の活動をお話ししてみました。ありがとうございました。

14. 点 鐘